

USER REPORT

アルコール検知器導入の先駆者として安全運行を徹底、一般車両の模範となる運転をめざす。 しずてつジャストライン株式会社

しずてつジャストライン株式会社

路線数99、年間旅客数3,200万人を数えるしずてつジャストライン株式会社は、路線バス事業を通じて、地域の足となり人々の暮らしを支えている。同社は東海電子のアルコール検知器を全国で初めて導入した企業でもある。安全意識の徹底は、路線バス事業のゆるぎない信頼に結びついている。

飲酒運転防止への決意

深沢氏：当社は10年ほど前にALC-PROを導入しました。きっかけは、他のバス会社が飲酒運転で事故を惹き起こし、世間で問題視されたことです。バスは一般車両の規範となる運転をしなければならず、なによりもお客様の大切な命をお預かりしています。私たちは「間違っても飲酒運転を起こしてはならない」という強い意志を持って飲酒運転防止に取り組むことを決意しました。そんな時、地元の新문에掲載された東海電子の製品記事を見た社長が、その機能に興味を持ち、営業所に試験的に導入していきました。

導入当初、飲酒習慣のある乗務員には比較的安価で性能もよい検知器の購入を勧め、自家用車での通勤前に簡易型飲酒検知器で検知し車を運転するよう指導しました。今ではそうした乗務員の意識も変わり、「飲酒運転は悪」との自覚を持ち、各営業所で自発的に飲酒運転防止に取り組んでいます。

全社員で飲酒チェック

深沢氏：現在は8営業所の点呼場にALC-PRO IIを置き、出退勤時にチェックしています。乗務員だけでなく整備士や事務員も検査をしています。



取締上は体内のアルコール残量が0.15 mg/L以内であれば酒気帯びにはなりません、当社規定は0.00mg/Lです。飲酒運転の罰則は特に厳しい懲戒処分を実施し、全社員で飲酒運転の撲滅に取り組んでいます。

アルコール検査は安全運行が目的であって、乗務員を罰するために行うわけではありません。車両を運転する全社員が飲酒検知を実施できるよう、休憩設備のない出勤場所ではALC-miniⅢを車内に取付け、万全の体制で飲酒チェックを実施しています。



熱心な安全教育が信頼を築く

深沢氏：乗務員の場合、配属前に教育センターで2か月間の研修を受け、運転技術以上に安全運行の意識付けを徹底して行います。さらに、社長や常務(安全統括管理者)による職場巡視を毎月実施時、現場の管理体制を確認し、運転操作では『重大事故撲滅5項目』の安全操作を確認するため、乗務員と月3回の街頭監査を実施しています。毎月第3土曜日には、ヒヤリ・ハット等の事故防止意識の高揚を目的とした“安全塾”を任意参加で開催しています。

今ほど厳しい検知を実施していなかった昔は飲酒に対する意識が低く夜遅くまで飲むこともありましたが、そんな生活も変わりました。職場の仲間たちで飲むことがあっても、必ず次の日の出勤を確認し、飲酒運転にならないようお互いに意識し合っています。ALC-PRO IIによる厳格なアルコール検査によって会社の信頼をさらに高めることができたと思います。



同業他社に先んじてアルコール検知器を導入し、その後も数々の安全対策に積極的に取り組むしずてつジャストライン。輸送の安全確保を実現する真摯な姿勢には、飲酒運転防止を業界全体の問題とする意識の高さが伺える。

ご利用機器

パソコン連動記録型測定器

ALC-PRO II

取材ご協力

しずてつジャストライン
株式会社 鳥坂営業所

統括運行管理者 深沢 孝様
運行係長

〒424-0067
静岡県静岡市清水区鳥坂1 2 9 2
TEL 054-345-3444
FAX 054-345-3446

われわれの誓い

人の命は尊いものです。われわれが使用するバスはその取り扱いを誤ると、利用していただくお客様や通行する人々に危害を加えてしまいます。とくとして、われわれのそのミスが人の命を奪うことにもなりかねません。だから、どうしてもミスはなくしてはならないのです。そのためにわれわれ全員が、防衛運動確立の手段である「重大事故撲滅5項目」を自分の身体に覚えこませ、いついかなるときもミスを防ぎます。一日の仕事を始めるときは、いつもこの気持ちをもたなければなりません。

平成19年1月
取締役社長 山崎 武